

明学だより

第 30 号
令和6年3月18日

発行者
兵庫県立明石学園
TEL 078(942)1572
FAX 078(941)1264

贈る言葉

園長 安井 洋一

木々の蕾もほころび始め、日増しに春の伊吹を感じられるころとなりました。

今年卒業を迎えられる小学生3名、中学生14名の皆さん、卒業おめでとうございます。

振り返ってみると皆さんは、何らかの課題を抱え、親元や慣れ親しんだ生活を離れる寂しさ、新しい生活に対する不安が入り混じった気持ちで明石学園にやってきたことでしょう。入所後の生活では、これまでに経験のない日課や少なくない決まり事に慣れるまで、時には家に帰りたいと思ったことでしょうか。

しかし、寮の先生や分教室の先生の厳しい中にも温かく、愛情あふれる支援を受け、退園後の生活を見据え、規律正しい生活と社会生活に必要なマナーを身に付けられるよう取り組みました。クラブ活動を通じては、助け

合う気持ち、思いやる心、そして最後までやり抜く力を養うなど様々な経験を通じて、たくましく成長し卒業を迎えることができたのは、皆さんがたゆまぬ努力を積み重ねた結果です。その努力に対し心から拍手を送ります。今皆さんは、明石学園という港から幸せを掴むため船を漕ぎ出そうとしています。

しかし、これから始まる航海は、順風満帆ばかりとは限りません。思いどおりにいかない様々な出来事や試練にぶつかり苦悩することもあるでしょう。また、甘い誘惑に負けそうになるときもあるでしょう。そんなときは培ってきた経験が自分を強くしてくれると信じ、前に進んでほしいと思います。しかし、どうしてもうまく進めず立ち止まってしまったときは、一人で悩まず近くにいる大人の方や明石学園の先生に相談しに来てください。これからの日本の社会を眺めてみると、少子高齢化、人口減少社会が進み、働く人、子どもが減り地域の活力が乏しくなります。AIが発達し今の仕事の約半数がAIに置き換えられ

るとも言われています。また、日本は自然災害が多い国です。今年元日の能登半島地震で大きな被害があったことは記憶に新しいところですし、南海トラフで起きる大地震は今後30年で70〜80%の確率で起こるとも言われています。毎年のように梅雨や台風の時期に風水害が起こっています。他にも国の内外に様々な課題があります。このような厳しい時代だからこそ、近い将来、社会の主役になっていく皆さんには、一人ひとりが持てる力を發揮し、社会を支える存在になってほしいと思います。

それには、人と人とのコミュニケーションを大切にして生活することが必要です。人は一人で生きてはいけません。様々な人間関係の中で生きています。困難にぶつかったとき人と人のネットワークの中で解決できることも多くあります。また、AIやインターネットを駆使する時代だからこそ、友人、仲間への励ましなど、優しい人と人とのコミュニケーションが人を幸せにしていきます。皆さんは、皆さんを気にかけて幸せを願っている人がいることを忘れないでください。最後になりましたが、保護者の皆様、お子様の卒業おめでとうございます。職員一同お慶びを申し上げます。今日まで明石学園にお寄せいただきましてご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。

げます。また、子ども家庭センター等関係機関の皆様にも重ねてお礼を申し上げますとともに、今後とも明石学園の活動にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

贈る言葉

明石市立魚住中学校教頭 奥山 茂

明石学園に赴任し4年目が終わろうとしています。そろそろ、教育管理棟の前の桜が咲き始め、4月当初には満開になり、圧巻です。明石学園で生活している景色です。明石学園で生活していると、四季折々の様子がうかがうことができるので、心地よいです。しかし、いまだに新型コロナウイルス感染症が5類になったものの、インフルエンザ等も含め、児童生徒・職員ともに学校生活や寮生活において制約されることはいまだにあります。また予測困難なVUCA時代に突入し、我々教職員は子どもたちの主体性を伸ばすことを目標とし、学園職員と協力し取り組んでいます。行事等については、平時の状況に戻し、児童生徒達



が少しでも多くの体験活動を通じて、心身ともに成長できるようみんなを取り組んでいます。キャンプ実習・体育祭・学園祭や修学旅行など、取り組みから子どもたちは一生懸命に行い、我々も行事ごとに子どもたちから感動を与えてもらうことに感謝しています。

学園生活においては、家族的な雰囲気の中にも緊張感をもって生活し、基本的な生活習慣の確立をめざしています。次々と入所してくる生徒の険しい表情も数か月も経つと、すっかりなくなり、柔らかな穏やかな表情に変わっていきます。改めて生活習慣の大切さ、それを身につけさせている学園の職員の方々のご尽力には感服するばかりです。

分教室は、明石市立魚住中学校の教員10名(教頭含む)、明石市立清水小学校の教員2名の12名で学校教育を行っています。年度途中で入所してくる生徒がほとんどなので、基礎・基本の学習はもちろん、学習できていなかった部分の補充学習も必要です。それに加え個々の学力差もあり、教員はさまざまな配慮をしながら、授業に工夫を加え、個々に応じたきめ細かな指導を効果的に実践しています。

授業では、規律を大切にしながら、学力の向上をめざしています。今年度もICTを活用し、個々に応じた授業に

取り組んでいます。自らの進路実現のために、社会に出てから学園で学んだことが自信となって、生きていけることを目指しています。私たちの願いは、退園してから「必ず幸せになってほしい」ということです。

今年度は、14名の3年生が在籍しています。原籍校の先生方に尽力していただき、現段階で受験した生徒は全員が合格しています。学園で生活を立て直し、自分を見つめ直し、よく学び、しっかりと成長させて、社会に送り出さそうとしています。子どもたちが将来自立したくましく社会で生活できるように、分教室では、学ぶことの大切さや学力を身につけさせ、明石学園で培った力が発揮できるように願っています。今後とも子どもたちへのご支援を引き続きお願いいたします。



卒業する君たちへ

贈る言葉

所長補佐兼教務第1課長 東山正樹

学園に入所してから、今日までいろんなことがありました。毎日の生活や学校、クラブなど、学園内でコツコツと積み重ねる毎日でした。その君たちの頑張りを保護者、原籍校の先生、センターの先生に見てもらえる機会があります。

授業参観、体育祭、学園祭です。

授業参観では、緊張しながら発表し、楽しく勉強している姿を見てもらえました。

体育祭では、行進、体操、競技を汗だくになって取り組み、一つゴールするたびに笑顔が生まれました。

学園祭では、小学生の上手な朗読に始まり、明石学園の生活の発表、みんなの綺麗な歌声に、笑顔あふれる手話や合唱にたくさんの人たちに涙と感動を与えました。

君たちの頑張りを見てたくさんの方が、勇気をもらいました。感動し、君たちを励まし、応援したくなりました。

忘れないでください。皆さんは、この明石学園の生活を通して多くのことを学び成長しました。これからも皆

さんの頑張りが周囲の人間を変えていくことでしょう。また周囲の人たちに対する感謝の気持ちを忘れずにこれからも成長してください。



～卒業記念品～

陶芸部が制作してくれた箸置きです。さくら色がとてもきれいです。

「挑戦」

卒業を迎える中学3年生、小学6年生にこれから挑戦したいことを質問してみました。

【小学6年生】

○人間関係を良くして喧嘩やトラブルを無くせるように頑張ります。
Sくん

○中学生になったらキライな教科をこくくしていきたいです。
Yくん

○中学生になったら、算数の勉強をがんばりたいです!!
Rくん

【中学3年生】

○高校生になったら、苦手な、人との「コミュニケーション」に、挑戦する。
Mくん

○高校生になったら、たくさんの方の資格取得の試験に挑戦したいです。
Sくん

○高校生になったら、何にでも諦めず、に全力で取り組んでいきたいです。
Sくん

○社会に出て困らない人間になるために色々な事に挑戦していきます。
Hくん

○いろいろな人を助けてみんなを幸せにできる人になりたいと思います。
Tくん

○苦手なことに挑戦していろいろなことが出来るようになりたい。
Tくん

○高校生になったら、勉強を頑張りたいです。
Tくん

○高校生になったら、工業の授業頑張りたいです。
Yくん

○高校生になったら髪の毛とヘアツシヨンの勉強をします。
Kくん

○高校生になったらニガテ科目をこくくしていきたいです。
Rくん

○高校生になったら野球部でレギュラーを取れるように頑張りたい。
Rくん

○高校生になったら、将来の夢である福祉について勉強したいです。
Iさん

○高校生になったら、製菓についての勉強をがんばりたいです。
Mさん

○何事も逃げずに立ち向かうことに挑戦したいです。
Hさん



行事報告

11月24日
近畿児童自立支援施設駅伝大会

男子 Aチーム5位
Bチーム14位
女子 準優勝
(活動報告は後のページにあります)

12月12日
マナー講習会

12月20日
サンタさん来園

今年もサンタさんがプレゼントを持ってきてくれました。

サンタさんが来てくれました!



12月22日
修了式
クリスマス会

寮対抗のゲーム大会をしました。ジエスチャーゲームやポーリングゲームなど、想像力が発揮されるゲームが続きました。最後には全児童参加の、たけのこニョッキをしました。楽しいクリスマス会になりました。

12月26日
もちつき会

ついたお餅は、調理員さんが作ってくれた豚汁やきな粉と一緒にみんなで食べました。とても美味しかったです。



1月9日
始業式

1月15日
性教育(中1・2年男子)

1月19日
性教育(女子)

1月22日
性教育(中3男子)

1月26日
近畿児童自立支援施設卓球大会
団体戦(男子) 4位
(女子) 4位

(活動報告は後のページにあります)



2月16日 命の授業

愛知医科大学病院の船木講師と上野講師が、救急救命の現場やドクターヘリによる搬送の様子などを教えてくれました。また、おなかに10kgの重りをつけて妊婦体験をしたり、関節にサポーターを巻いてお年寄り体験をしたりもしました。妊婦さんやお年寄りの不自由さ、大変さを実感することができました。



関節が曲がらないので歩みにくいです
杖がないと歩くのが心配です

2月25日 尼崎市職員との交流会

尼崎市の職員の方々、教諭の方々、野球部と野球を通して交流予定でしたが、あいにくの雨でした。急遽、体育館でバレーボール大会を開催しました。大会は大盛り上がりでした。たくさんの方々にご参加いただき、ありがとうございました。

3月1日 持久走大会

前日の雨によって、コースの変更を余儀なくされましたが、大きなトラブルなく無事に開催することができました。

日頃のランニングの成果を存分に発揮出来ました。

クラブお疲れ様会

持久走大会の後に、体育館に集まってみんなでカレーを食べました。ハンバーグ、エビフライ、ウインナー、からあげといったトッピングもあり、おなかいっぱい食べることができました。その後は各クラブ代表児童が作文を読みました。クラブの写真を映像にまとめてもらい、この1年間の頑張りを振り返りました。2名の先生が「映画泥棒」に扮して楽しいパフォーマンスで会場を盛り上げてくれました。

3月5日 小学生百人一首大会

この日のために、百人一首を百首覚えた子もいました。札をとる時には、「はい」という元気な声が教室いっばいに響き渡り、白熱した大会となりました。

3月18日 卒業式



《クラブ活動報告》

陸上部活動報告

男子陸上部監督 遠藤 貴之

「完全燃焼！」

令和5年11月24日 近畿駅伝大会が滋賀県野洲市で行われ、駅伝メンバー以外は小学生から卒業生まで、男子陸上部はもちろん、卓球部員も参加入所1か月未満の者以外全員が参加しました。男子駅伝の部 明石Aチーム 5位 明石Bチーム 14位 ロードレースの部でも出場した者全員がベストタイムでした。

そのうち12人が駅伝メンバーとして、明石学園を背負ってチームとして走りました。夏場は週4回はずっと長い距離をゆくり走り、けが人防止に足腰を鍛えることに努めました。

秋から走り込み、スピード練習です。走り方が分からず、ペースが作れず、苦労していました。しかし、自分自身と戦えない者が多くおり、すぐにあきらめてしまうのです。そんな雰囲気の中、東播駅伝大会参加。初めての対抗戦。東播駅伝はチームとしての力が、発揮できませんでした。緊張や不安があった状態で、持っている力の6〜7割しか出せなかった印象でした。一般中学校とのレベルの差を感じての敗北から、「練習につ

いていこう。落ちることなく、あきらめることなく、監督の出すメニューをこなそう。」と生徒たちと話しました。残り3週間でチームはより結束を強め、本番までつらいきつい練習をのりこえてきました。

最後に、結果は優勝できませんでしたが、しかし、駅伝メンバーは近畿駅伝を走りたいと思つて頑張つてきて、自分の力を完全燃焼でき、満足してゴールができたようでした。苦しい時も、うまくいかない時もあるが、陸上にかかわった子どもたちが、自分が決めた道で完全燃焼してほしいと思つていきます。



女子陸上部監督 角南 公洋

『坂道ダッシュ』

近畿児童自立支援施設駅伝競走大会の駅伝コースには折り返しに向かつて、長い坂道がある。そこで私は、他チームとの差を広げる為に、坂道走る練習をすれば良いと脳筋な考えに至った。明石学園の裏道を抜けると、

長い坂道が出現する。それを見て意気消沈する子がほとんどの中、目を光らせる珍しい子もいて、その温度差を感じながら、坂道ダツシユが開催された。終盤になるにつれて、下を向く子が続出し、もう限界かなと思つた矢先、「ラスト頑張ろう!」「絶対いける!」等の前向きな声かけが、生徒の口から出た。その言葉に感化され、皆が前を向き、がむしゃらに腕を振って力を出しきることができた。その様子を見ていて、言葉のタスキがあると確信した。この練習をきっかけに、練習中のプラス発言が増えて、粘りの走りができるようになった。

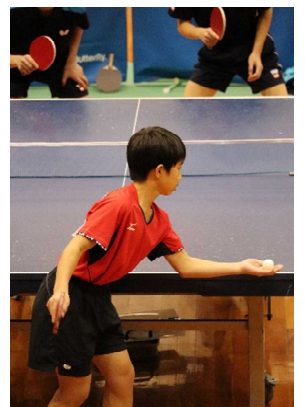
短い期間で体力的な成長は少なかつたかもしれないが、生徒同士がスクラムを組み、高め合うことで、自身身の可能性に気がつけたことが準備優勝という成績に繋がったのだと思う。



卓球部活動報告

男子卓球部監督 今津 康介

昨年度大会は体調不良者が多くおり、全員で参加することが出来ず悔しい思いをしました。しかし今年度は、部員全員で参加することができました。このことが一番良かったと思います。団体戦では4チーム中4位という結果に終わりましたが、全員がチームのために一生懸命プレーする、応援する姿がありました。そんな選手の姿を見ることができ、卓球を通じて身体だけではなく、精神的に大きく成長していると感じました。また個人戦では、全員が1勝することができ、満足そうに報告に来る選手を見るとこちらまで笑顔になりました。近畿大会優勝を目指して頑張ってきましたが、卓球を通じて1人1人が注目をされ、緊張しながらプレーをし、勝ち負けに関係なく沢山の人が賞賛される経験を積むことが大事なのではないかと、気づかされる大会になりました。皆様のご理解、ご協力があつてこそ卓球部が運営できると思っています。これからも子ども達に沢山の経験を積ませる機会を多く設けたいと思いますので、よろしく願いいたします。



女子卓球部監督 上村 優一

今年度の女子卓球部は練習時間がかかなり少なく、約1ヶ月程度となつてしまいましたが最後まで練習を真剣に行うことができました。誰一人手を抜かず、頑張っている姿はとても遅しく見えます。

令和6年1月26日、近畿児童自立支援施設卓球大会が行われました。結果としてあまりよい成績を残すことは出来ませんでした。練習の成果をしっかりと発揮出来たのではないかと考えます。

バレーボール部活動報告

女子バレー部監督 上村 優一

今年度の女子バレーボール部は、元気で若い職員が2名練習に参加してくれ、パワフルな練習をすることができました。子ども達もとても楽しそうな雰囲気練習してくれていました。

去年度は選手人数が少ないことに悩まされましたが、今年度は7人になり、活気あるクラブ活動になりました。10月21日、兵庫県下養護施設バレーボール大会が行われ、優勝することができました。10月27日、近畿児童自立支援施設バレーボール大会が行われ、予選リーグを2位で決勝リーグへ。決勝リーグでは惜しくも負けてしまい結果として4位という成績に終わりました。結果的に負けてしまいました。その後子ども達が書いてくれた作文を読むと、「バレーで学んだことが多く、とても楽しくできました」という言葉を書いてくれる児童が多くいました。私もこのクラブ活動を通じ、学ぶことが多く、これからも仕事、そしてクラブ活動ともに精進していきたいと考えています。



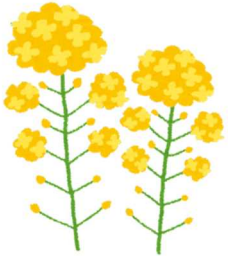
理念・基本方針

明石学園運営理念

私たち職員は、子どもたちを「変えよう」とするのではなく、子どもたち自身が「変わろう」とする気持ち・こころを育み、支援していきます。

基本方針

1. 生命の尊重
私たち職員は、子どもたち自身が自分を大切にすることでなく、他の人間も大切に、生き甲斐を実感できるように支援します。
2. 子どもの最善の利益
私たち職員は、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、学園での生活をおして、子どもの自立及び自己実現のために、子どもの生活の質の向上に努力します。
3. 子どもの権利擁護
私たち職員は、「児童の権利条約」を遵守し、いかなる差別・虐待・人権侵害、特に職員の子どもに対する体罰、子ども間のいじめ、暴力も許さず、子どもの権利を擁護します。
4. 子どもの成長・発達への支援
私たち職員は、子どもが基本的な生活習慣や道徳観を身につけ、発達年齢に相応しい正義感や責任感が持てるよう支援します。
5. 子どもの自立への支援
私たち職員は、子どもの発達年齢に応じた学力や生活技術の習得、そして、子どもたちの能力や希望を尊重した進路選択を支援します。
6. 懲戒権の濫用の禁止
私たち職員は、いかなる場合においても、体罰及び心理的な苦痛を伴う罰や他児への見せしめ的な行為を、全職員の共通認識のもと、一切これを行いません。
7. プライバシーの尊重と個人情報保護
私たち職員は、一人ひとりの子どもや保護者のプライバシーを尊重するとともに、職務上知り得た個人情報を漏らしません。



○行事予定

4月6日 保護者関係機関懇談会
4月8日 着任式

始業式
入学式



リクエストメニュー
ビビンバ・マカロニサラダ・豆乳鍋風スープ

【編集後記】

春には、別れや新しい出会いが多く訪れます。緑に恵まれたここ明石学園でも、百年以上に渡り、出会いや別れが繰り返されてきたことを思うと、大変感慨深いです。3月で学園を離れる先生方、今まで本当にありがとうございます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんのこれからの歩みに負けないよう、私たちも進んでいきます。皆さんの今後のご活躍を願っています。

(手島 梓)

真冬の流しそうめん！



そうめん以外の物が流れてくるとか、こないとか

葵寮の恒例行事！